

日本学術会議 課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会
国際研究プログラム連携分科会（第1回） 議事要旨

日 時 2010年6月2日（水） 16：20－18：10

場 所 日本学術会議6階 6-B会議室

出席者 （委員）竹内邦良，佐竹健治，春山成子，
（参考人）佐々恭二，朴 恵淑，望月常好，是澤 優，
（事務局）田中智之，

資 料 資料1 日本学術会議課題別委員会「自然災害軽減のための国際協力のあり方」
メモ

資料2 災害科学捜査事例研究の視点

議 事

1. 本分科会の委員長として、竹内邦良氏を選出した。
2. 竹内委員長から、幹事として佐竹健治氏が氏名された。副委員長として林春男氏、幹事に是澤優氏が就任予定である旨の発言があった。
3. 本分科会の名称について、第1回委員会資料では「国際研究プログラム連携分科会」と「国際プログラム連携分科会」と、「研究」の有無について統一されていないことが指摘された。本分科会としては、国際研究プログラムを対象とすることが確認された。なお、分科会の名称については、「国際プログラム連携分科会」が正式なものであることが、分科会後の調査で判明した。

4. 審議の進め方について議論した。

分科会設置のための資料には、審議内容として以下が掲げられている。

- (1) プログラムのマッピングと連携方針
- (2) 効率的貢献のために必要な支援体制
- (3) 個別プログラムの推進方策

これらについて、まず国際研究プログラムのリストアップ、防災の枠組の中での分類（マッピング）を行い、抜けている分野や各分野での日本の貢献について提言を行う。さらには、日本が国際研究プログラムにおいて効率的に国際貢献を行えるようにする方策について議論し提案を行う。これらについて、早い段階で課題委員会（親委員会）にプレゼンを行った方がよいと思われるので、拡大幹事会に提案することとした。

5. 上記目標に関連して、国際研究プログラムでのリーダーシップ（アジア，欧米に対し），研究を実践に生かすための方策や科学外交等について，現状と課題に関する問題提起があった。
6. 次回までに，以下の事項についてのメモを幹事に提出し，次回はそれに基づいて議論を進めることとした。
 - (1) IRDR サイエンスプラン Appendix III 55-64 ページにある既存の国際研究プログラムについて，抜け落ちているものがあればリストアップする。
 - (2) 各プログラムについて，災害マネジメントサイクル、防災の枠組 (Risk = Hazard x Vulnerability x Exposure / Coping Capacity) での位置づけ（マッピング）を行う
 - (3) 防災の国際連携に関する現状と課題について，本分科会で議論すべき事項の提案
 - (4) 資料 1（竹内委員長メモ）についてのコメント
7. 本分科会のメンバーは，IRDR 小委員会（土木工学・建築学委員会学際連携分科会）のメンバー並びに幹事会とも重なっていることから，IRDR 小委員会の拡大幹事会にも位置づけ，IRDR への国内対応についても同時に議論することとした。IRDR については，災害の科学捜査のためのテンプレート作成に防災関係の 13 学会が協力することになっている。林副委員長と是澤・佐竹両幹事で学会との連絡を進めるよう，竹内委員長から指示があった。次回の IRDR の科学捜査に関する作業部会は 10 月 22-24 日に予定されている。

(以上)